

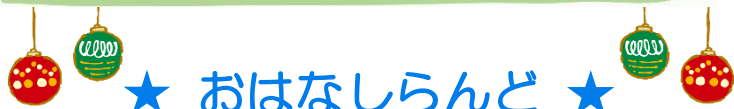
庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2017.11.29(No.29)



★ おはなしらんど ★ ～ たのしいおはなし会 ～

☆日時：12/20 (水)・10時～

☆会場：余目第一公民館

いつもと会場が違いますので、

ご注意ください！

お申し込みは不要です。
今年最後のおはなしらんど、
ぜひ遊びに来てください！



図書館カレンダー ★開館時間

⇒休館日 ・平日 午前 9:00～午後 6:00

⇒特別貸出 ・土日 午前 9:00～午後 5:00

○ ⇒おはなしらんど

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

☆ 年末年始特別貸出 ☆

12月2日～12月28日まで

ひとり10冊まで貸出いたします！

庄内町 内藤秀因水彩画記念館

Shonai Town Shuin Naito Museum of Watercolor

展示のご案内

2017年11月25日(土)→12月28日(木)

「内藤秀因記念第20回水彩画公募展 入賞作品展」

「20回記念特別招待出品作品展」

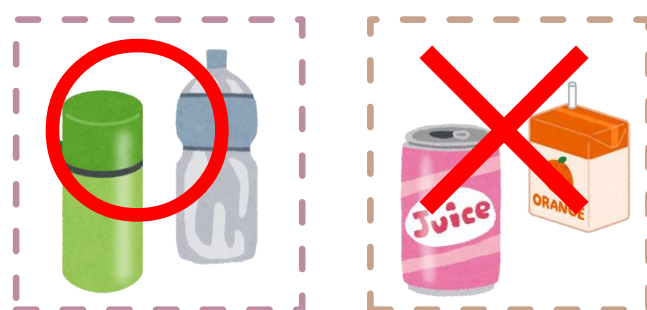
20年目を迎えた水彩画公募展。今年は県内外から1,624点もの作品が寄せられました。本展ではこのうち小学生の部、中学生の部、一般の部の入賞作品 計49点をご紹介します。

また、本年は20回目の開催を記念し、「特別招待出品作品展」を併催いたします。一般の部における歴代の内藤秀因記念大賞受賞者による作品14点を特別に展示しています。

外ではすでに紅葉も落ち、曇り空の続く季節ですが、館内はのびのびとした発想・筆遣いで描かれた作品や、みずみずしく鮮やかな作品で賑やかに彩られ、見ると元気を貰えます。図書館にお越しの際は、ぜひ記念館にもお立ち寄りください。

ふた付き飲料 ペットボトルが 持ち込みできます！

図書館内で、ふた付きの（密閉できる）飲料に限り、飲むことが出来るようになりました！



水筒やペットボトル飲料以外のものを飲食される場合は、1階ホールにてお願いいたします。

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP → <http://www.town.shonai.lg.jp/library/>



Merry Christmas! としょかんからのプレゼント



『まどから☆おくりもの』五味太郎／著（偕成社）

一般的年中行事としても楽しまれているクリスマス。クリスマスの楽しい絵本と言えば断然こちら！！

“しかけ絵本”で、サンタクロースが家々を回り、窓から贈り物を配って歩き、絵本のページの穴開きになった窓からは、家の中の動物や子どもの体の一部が見え、サンタさんはそれを見て「ここは誰々のおうち」と即断し、贈り物を選ぶものの、あわてんぼうのサンタさんの思い違いが引き起こす、めくる楽しさ抜群の絵本です。

クリスマスで思い浮かべる本は、今やベテラン脚本家・内館牧子氏の初エッセイ集。著者による、全編イラスト入り、『ベティちゃんの地味なくらし』内館牧子／著（角川書店）の「クリスマス・イヴと女友達」の編。クリスマス・イヴの夜、全てカップルのレストランで女友達と過ごしたことに基づくお話。「生涯においてあれほどみじめなイヴはないというほどみじめな夜」としつつも、黙々と食べた、のではなく、「やーっぱし、女同士が一番ねッ」「そそそ！気楽で楽しいもんねッ」「ホート、楽しいわっ」「楽しいねーッ」と乗り切ってしまうあたり、かくありたいとつくづく思われます。

全編において、著者の物を見る目の限りない温かさ、暮らしを楽しむ巧みさ、には疲れに疲れた心をも、いつの間にか楽しい気持ちに変えてくれるクリスマスの贈り物に思えています。



『おとうさんねずみのクリスマスイブ』

クレメント・C・ムーア／原作、
ダニエル・カーク／文と絵、
わたなべ てつた／訳
（福音館書店）



このお話は、コロンビア大学を卒業し、ニューヨークの神学院で聖書学を講義していたクレメント・C・ムーアがクリスマスイブに自分の子どもたちに贈った物語詩が『クリスマスのまえのばん』として世の中に広まったものを、ダニエル・カークが自分の出版したベストセラー絵本『としょかんねずみ』シリーズ（全5巻）のねずみをモチーフにして新たな命をふきこんだ作品が『おとうさんねずみのクリスマスイブ』です。

クリスマスイブにトナカイのそりに乗ったサンタクロースが家の暖炉の煙突から入り、プレゼントを置いていくというオーソドックスなお話ですが、絵がとても美しく、文中に時々出てくる大きな文字もお話のアクセントになっています。

図書館には、クレメント・C・ムーアの物語詩の原文と、有名なイラストレーターのウィリアム・W・デンスロウの挿絵による『クリスマスのまえのばん』（福音館書店）の本もありますので、比べてみるのも楽しいと思います。



みんな、たのしい季節だから…



『サンタちゃん』

ひこ・田中／作、こはら かずの／絵
（講談社）

「サンタクロースが大好き」そう思う子どもたちは今の時代も多いはず。けれど、この絵本の主人公・アルミちゃんの「好き」はちょっと違います。突然サンタの家を訪ねてきた彼女は、サンタクロースに向かってこう言うのです。「サンタクロースになりたいの」と。

その言葉に最初は戸惑うサンタですが、彼女を「サンタ」にするべく、一生懸命訓練を開始します。

時には、アルミちゃんがサンタやトナカイ達にアドバイスを求めるシーンもあり、ちょっと生意気なアルミちゃんと、穏やかでやさしいサンタとのやりとりがとても微笑ましい1冊です。

クリスマスまであと少し。アルミちゃんは「サンタ」になれたのかどうか、どんなクリスマスを過ごすのか、ぜひ読んで確かめてみてください。

みんなて絵本もよみましょう！

『サンタクロースってほんといにいるの?』 てるおか いつこ／文 すぎうら はんも／絵

（福音館書店）

この時期子どもたちにとっては、クリスマスにサンタクロースがちゃんとプレゼントを持ってきてくれるかどうかは大きな問題です。サンタクロースって子どもにとってははとつてもミステリアスな存在ですね。この絵本はサンタクロースに対する問いかけに、お父さんさんとお母さんが、お風呂に入りながらや年賀状を書きながら答えていくお話です。

「どうしてぼくのほしいものがわかるの?」「こどものほしがっているものがわかるひとだけが サンタになれるんだよ」「どうしておとうさんやおかあさんにはこないの?」「こどものときにたくさんもらったからね」…。子どもたちはサンタクロースについての疑問をどんどん投げかけます。その一つ一つに対するお父さん、お母さんの回答がとても素敵なのです。

「ねえほんとうにいるの?」「いるよ サンタクロースはこどもをよるばせるのがなによりたのしみなのさ。

だってこどもがしあわせなときはみんながしあわせなときだもの」

いつまでも子どもたちの幸せを願うサンタクロースがいる世の中であってほしいですね。

